

【平成17年度専修学校を活用した職業意識の啓発推進事業】

事業名	中野区専門学校フェア		
学校法人名	学校法人東放学園		
学校名	専門学校東京アナウンス学院		
代表者	理事長 木下 豊	担当者・連絡先	小野 喜彦 03-5326-7007
<p>&lt;事業の概要&gt;</p> <p>中野区専門学校協会では従来から区内の中学校に対して「総合的な学習の時間・上級学校訪問、体験学習」に協力をしている。</p> <p>その繋がりと、中学校教員のから要望を受け、1日に1会場で随時に様々な職業や進路を知れるイベントとして当事業を計画した。</p> <p>機会として中学生のみならず、高校生・フリーター・保護者向けにニート対策として講じられるように、さらに、情報提供する専門学校各校がなるべく多く集まれる内容と日程を考案した。</p> <p>当初は8月の夏休み時期、さらには10月を開催時期に予定していたが、区内の施設（ホテル等）と折り合いがつかず、12月にイベント施設ではなく委員校の校舎を使用することで骨子を固めた。</p> <p>計画に際しては当協会が実施委員会となつての合議制とし、その中の学校法人東放学園が代表幹事を務めた。7法人が参画し、14の職業ジャンルの紹介コーナーを開設。</p> <p>事業の告知に関しては、ポスターとチラシを作成し、区内及び近郊の中学校と高校へ配布。区立中学校では校長会と進路指導部会を通してホームルームで生徒全員にチラシを配布してもらうことを依頼した。高校へは参画校が分担して高校訪問をし、動員を呼びかけた。さらに一般家庭向けにチラシの新聞折込（折込費用は無償）、区内の情報誌への広告出稿（費用は当協会の事業運営費から支出）をした。</p> <p>中野区からは「後援」の名義を頂き、広報物へ明記した。</p> <p>これらの過程で、平成17年12月16日、織田デザイン専門学校ほか学校法人織田学園校舎を会場にしてイベントを実施した。</p>			

<成 果>

当日の参加状況は下表の通り。

来場者実数は88名。(受付時プログラム配布数による)

各コーナー参加人数 (各担当校による報告)

織田学園デザイン	ファッション	3(見学のみ 29)
織田きもの	きもの	12(見学のみ 15)
織田調理師・栄養	調理	25(見学のみ 15)
アポロ歯科	歯科	6
窪田理容美容	カット・ネイル	10
東京工科	自動車	10
東京工科	IT・建築	5
日本ホテル/トラベルジャーナル	バルーン・テーブルナプキン	8
メディカルトレーナー	メディカル	7
東京アナウンス学院	ダンス・声優	6
	コーナー総入場者数	148

来場者にはアンケートを配布。回収は23件であった。

高校生	13
中学生	8
その他	2(教員1)
Q何を見てきたか	
学校にあったポスター、チラシを見て来た	18
先生の紹介、指導で来た	4
Qこのような催しがあったらまた来たいか	
また来たい	19
わからない	3
来たくない	0

一般来場者の殆どはアンケート未提出。

中学生・高校生と一般が半々の割合であった。

高校生4名が「先生の紹介、命令で」とした以外は全員が「ポスター、チラシを見た」で、「新聞の折り込み広告」や「中野区情報誌」で知ったという人はゼロ。

1件1件の感想記入欄にはたくさんの方のことを書いてもらっており、「とても楽しかった」「進路の参考になった」「学校に興味を持った」等々、好評ばかりであった。

イベントの様子は教育機関誌(専門学校新聞)、地元ケーブルテレビ(シティテレビ中野)で取り上げられた。

## <反省>

上記アンケートによる感想のほか、後日に動員協力していただいた中学校に御礼の挨拶をしたところ、「生徒は大変勉強になった様子で、また来年以降も実施してもらいたい」という謝辞をいただいた。

紹介をする職業ジャンルの幅広さは当協会による特長で、さらに当日の出し物も趣向を凝らしたものであった。にもかかわらず、参加者が100名足らず、と乏しかったのが最大の反省点である。

最終委員会（反省会）で、“次年度も実施するとしたらどうしたら良いか？”という点を質した。

- ・メインと考えた中学生の動員が少ない。校長会を通したものの、「強制力」が無かった。「学校行事」にしてもらえるまでの事前交渉を要する。⇒学期前の早めの案内が必要。
- ・内容のわかりやすさが必要。もっと気軽に参加できるという感じが必要だった。
- ・時期の問題。寒い時期よりも暖かい時期の方が。（文科省委託事業に内定するのは7月だが、それまでに準備を進めて）10月～11月上旬実施が妥当か。
- ・文科省事業ということで「広告宣伝」に類する項目は好ましくないと考えて計画には盛り込まなかった。が、同様事業を実施している他の法人からはこれを設けていると聞いた。ホームページを開設するなど、宣伝するための方法と費用を必要とする。
- ・中野区には後援をしていただいたが、広報的な協力は叶わなかった。区報への掲載には3ヶ月の期間を要する。

結果論ではあるが、こういうやり方でやったらこうなった、という事例は分かったので、これを踏まえたい。

当実施委員会としては、また次年度も実施しようという総意である。